

### ⑤静岡＝鹿児島路線

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該地域間の交流として、県西部の製造業と鹿児島県の工場との流動の他は、特定の産業による流動は見られない。</li> <li>・航空利用による静岡県－鹿児島県間の流動においては、県東部では羽田空港、県西部では中部空港が鹿児島路線の利便性が高いため、静岡空港利用圏域が限定されている。</li> </ul>
方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の関連産業として漁業や茶業等のビジネス産業を想定する。</li> <li>・観光需要が中心である当該路線において、ビジネス需要の取り込みにより、年間を通した需要の安定性を図ることにより路線の維持を図ることとし、路線双方の関係者の連携により、ビジネス需要の顕在化につながる取組を実施し、その効果について検証するものである。</li> <li>・また、従来の利用者層以外に、サポータークラブや地域の団体等を活用した高齢者層や若年層の取り込みを図る。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島におけるPRイベントやキャンペーン実施により、認知度が大幅に向上し、ホームページアクセス増加、個人予約の拡大につながった。</li> <li>・企業間が主体となった交流に行政が支援することで、両県のホテル連携が実現したことで、県内有力企業同士の産業交流、ホテル宿泊などの観光交流増加につながり、幅広く交流が拡大し、将来的な交流の継続が見込まれる。</li> <li>・プロジェクト当初に茶業者等の企業からの要請としてダイヤ改善の課題が多く挙げられたが、本プログラムを契機として、28年度から通年で毎日運航が実現したことで、課題が解消され利用の拡大につながった。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問、イベント開催の回数を重ね、地道にサポーターズクラブ加入者を増やしており、息の長い活動で将来的にも継続性があると考ええる。</li> <li>・物産展や地域を代表するホテル同士の交流を通じて、両地域間の交流の核を作ったことは高く評価できる。</li> <li>・静岡、鹿児島両県の行政関係、経済団体、民間企業間で交流を図れたことで、今後の継続した路線維持活性化につながることを期待される。</li> </ul>